

知ってるようで
知らない私たちの町 ④

広々とした空と田園の町。

黒石 (東又)



広々とした田園地帯

窪 川の町中からくぼかわ病院の前を通って東へ5〜6kmほど行った辺りが東又地区黒石。旧東又村の中心地で、周囲には切り立った山も無く、広々とした田園地帯である。

この辺りはずっと竹林が多かったらしい。それを先人たちが「唐くわ(鰻)」一本で開墾したという。この「唐くわ」というのは鰻の原形で、竹林を開墾するには最も優れているのだと、同じく東又(本堂)の鍛冶屋さんが教えてくれた。



風情のある並木道

こ こ黒石には、県立実践農業高等学校(通称、農大。あるいは、稚川アグリ塾)がある。歴史あるこの学校からたくさんの「農の担い手」が巣立っていった。現在は「農を志す」都会からの人たちが多く学ぶ。

農大のすぐ裏手が、広々とした草原に



なっているのだが、平成14年のよさこい国体では、ここで馬術競技が行われた。ところで、この農大の正門付近に、とても風情のあるメタセコイヤの並木道がある。ちよびりロマンチックな空間で、50〜60年前に農大の卒業生たちが植えたのだそうだ。粋な「かつての若者たち」が目に見えよう。

榎と銀杏で「榎杏館」

地 区にひとつある小学校「東又小学校」の歴史は古い。昭和53年に開校100年を迎えている。その時、この学校の卒業生らが主体となって建てた、



「榎杏館」という記念館が学校の敷地内にある。今も校門近くにある大きな銀杏の木と、かつてあった榎の大木に、その名の由来があるのだそうだ。現在ある榎の木は、館建設の時に新たに植えたものだということである。

歴代の東又小学校の卒業生にとって、「榎と銀杏」は、思い出の学び舎のシンボルなのだということが伝わってくる。